砺波郷土資料館　第37回郷土先人展

流送に生きた人々

平成25年
10月11日(金)▼11月24日(日)

《時間》午前9時～午後5時
《会場》砺波市立　砺波郷土資料館

「りゅうそう」ってなんだろう？

入館無料

〒939-1382
砺波市花園町1-78
砺波チューリップ公園内
休館／毎週月曜日・第3日曜日
TEL／(0763)32-2339
主催／砺波郷土資料館
共催／砺波市文化協会

【流送に生きた人々】

庄川では近世初頭より上流の飛騨地方や五箇山から伐り出された木材を川の流れを利用して運ぶ「流送」が行われていました。この作業を行う職人は「流送夫」と呼ばれ、庄川にダムが建設される昭和初年まで活躍していました。

今では見ることのない流送夫たちの仕事や生活、ダム建設後は活躍の場を庄川から日本各地、南樺太、満州と広げた様子など、流送に生きた先人たちの姿を紹介します。

【主な展示内容】

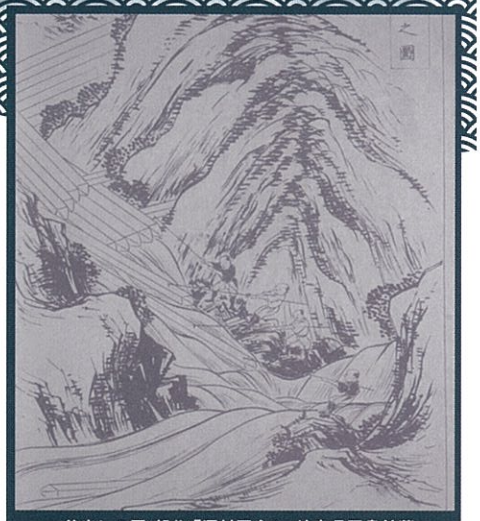
◆加賀藩からの命令で飛騨や五ケ山から庄川を下って木材が運ばれる〈近世〉
◆絵図にみる山からの伐り出し運搬方法〈近世〉
◆江戸時代の御囲場〈近世〉
◆流送の仕事〈近世・近代〉
◆活躍の場を広げて―日本各地、南樺太、満州〈近現代〉
◆流送の道具、模型

など

庄川では近世初頭より、上流の飛騨地方や五ヶ山から伐り出された木材を川の流れを利用して運ぶ「川下げ」「流送」が行われていました

◆流送年表◆

年	西暦	事　柄	備　考
天正13年	1585	越中(新川郡除く)が前田家の領地となり、加賀・越中・能登の三国支配がはじまる	これより明治4年(1871)の廃藩置県まで、前田家による支配が286年続いた
文禄3年	1594	加賀藩前田利家より五ヶ山の材木輸送について庄金屋に材木の管理を申し付ける	金屋には川下げされた木材を一時的に貯めておく御囲場があった
寛永元年	1624	この頃より加賀藩で用いる木材を飛騨より伐り出す	
元禄5年	1692	飛騨国が幕府直轄地となり、飛騨の山林が御林山(ごはいやま)として幕府の支配におかれる。飛騨の山で伐採された木材は幕府の御用木として江戸や大坂、清水に運ばれる	飛騨で伐採された木材は、南方は飛騨川を川下げして太平洋側に、北方は庄川・神通川を川下げして日本海側に流した
寛政3年	1791	幕府の命により、天明8年(1788)の大火で焼失した東本願寺再建のため、白川郷の山より伐り出された材木が庄川を下って金屋に集められ、翌年伏木を経由して京都まで運ばれる ※本願寺用木を伐出す『二十四輩順拝図会　越中越後　三』	白川郷五ヶ山→金屋→伏木→能登→加賀→若狭→丹後→但馬→因幡→伯耆→出雲→石見→長門→周防→安芸→備中→備後→備前→播磨→大坂→伏見→高瀬川通→京都七条
天保11年	1840	高山の商人が飛騨御林山から江戸城修理のための用材を伐り出した際の枝木を川下げして木呂(薪用の雑木)として金屋で販売をする	金屋岩黒村・青島村は木材の集散地として重要な位置を占めるようになった
明治7年	1874	廃藩により規制されていた伐木が自由になる。高山の材木商により飛騨の山から伐採された建築材・用材が庄川に川下げされ、庄川の流送が盛んになる	
大正4年	1915	青島貯木場に鉄道が敷設され(砺波鉄道青島町駅)、下流の伏木まで川を利用して流していたものが陸上輸送に替わる(中越鉄道福野駅経由)	
大正5年	1916	浅野総一郎が発電を目的に庄川水利権の使用を出願(大正8年認可)	
大正15年	1926	富山県知事がダム工事認可	
昭和5年	1930	小牧ダム完成により庄川での流送が出来なくなる	
戦前		庄川の流送夫たちが北海道、静岡、日本統治下の満州、樺太などへ流送夫として出稼ぎに行く	越中衆と呼ばれた庄川の流送夫たちは技術が高く真面目で働き者として評判が高かった
戦後		北海道や静岡へ庄川の流送夫たちが出稼ぎに行く	北海道では主にパルプ材を、静岡ではパルプ材の他、茶や果物の木箱用材も流送していた
昭和30-40年代		トラックによる陸上輸送、ダムの建設、人夫不足、安価な外国産木材の輸入などにより流送が衰退、江戸時代より続いた流送の歴史が終わる	



谷出しの図(部分)『運材図会』　岐阜県図書館蔵

奥山の木材を深い谷に落として運ぶ「谷出し」大正末期

「鉄砲出し」をするために堰き止められた大量の木材 大正時代

◆流送夫の仕事◆ ―伐採から運搬、集積まで―大正・昭和時代 庄川を例に

【分担】 樵の仕事 ／ 流送夫の仕事

【手順】 伐採 → 集材 山出し → 谷出し → 川下げ → 陸揚げ

【内容】

- **伐採**：地元の樵が木を伐採する
- **集材 山出し**：山中に散在する木材を集め、川岸まで搬出する［修羅出し 木馬出し］
- **谷出し**：奥山の谷の支流に木材を入れ、本流へ流す［鉄砲出し］
- **川下げ**：笹舟に乗り、岩などにつかえている木材をヤリで返し、川の流れに戻して木材を川下へ送る
- **陸揚げ**：本流から金屋の二万七千石用水取入口を通って青島貯木場へ陸揚げし、集積する

◆流送で使われる用語◆

流送　山から伐り出された木材を川の流れを利用して運ぶこと。「川下げ」「川狩り」も同じ。

渡場 土場　上流から流した木材を陸揚げする場所、又は伐り出した木材を一時的に集積しておく場所。貯木場。

修羅出し　山中の木材搬出法の1つ。谷の急斜面に細い丸太を縦に樋状に並べ、木材を滑り落として運ぶ。勢いよく滑り落ち、修羅のごとく跳ね返るところからきている。「修羅出し」ともいう。

木馬出し　山中の勾配がゆるい所の木材搬出法の1つ。枕木を並べ、その上を木ゾリで運ぶ。比較的長い距離の運搬に用いる。

鉄砲出し　水量の少ない支流で木材を流す方法。木材でダムを作り水と木材を堰せ止め、一杯になったら水門を開けて一気に押し流す方法。

舟夫　流送夫の中でも舟を操ることができる船頭。越中舟夫としての腕前には定評があった。